

ボランティア活動等の成果

平研究室では、2015年の発足以来、数々の防犯ボランティア活動を継続しており、多くの表彰、助成金を獲得しています。また、赤い羽根共同募金会のCMである、「あかいはね女子」シリーズにも選ばれて動画を視聴できます。その他、広島県、広島県警、福山市の学生委員を務め、学生の立場から行政や防犯に関する意見を述べてきました。その活動成果をまとめてみました。

1. 地域安全マップ

地域安全マップは、子ども達の見線でフィールドワークを行い、子ども自らが危険な場所と安全な場所を見分けることが出来るようにする指導法です。この危険回避能力に加え、コミュニケーション能力、地域への愛着心、非行防止能力が向上することを質問紙調査で明らかにしています。ゼミ生で組織する[PACE 福山支部](#)が、小学校で指導する活動も2006年から10年以上継続していて、過去に[内閣府特命大臣表彰](#)、日本善行賞、広島県知事賞、福山市長賞など数々の表彰も受けています。

2. 広島県共同募金会の「社会課題解決プロジェクト」

PACE 福山支部が、2001年から6年連続で広島県共同募金会の「社会課題解決プロジェクト」の参加団体に採用されています。「社会課題解決プロジェクト」は、一次審査が書類選考、二次審査では面接審査が行われます。毎年、1月から3月の間には募金活動として、教育委員会、小学校、公民館、警察署などを訪問して約40万円を集めます。これらは赤い羽根共同募金を通して支給され、PACE 福山支部の年間活動費として支出しています。このような財政的基盤を持つことも継続には重要な要素です。そして、2015年には赤い羽根共同募金会のCMに「[福山のあかいはね女子](#)」として選ばれ、マツダスタジアムやANAの国内線で流されました。現在もYouTubeで視聴可能です。また、2015年9月10日(木)、「[2015 赤い羽根×カープ コラボゲーム](#)」で近藤志保さん(9期生)が、公式戦の始球式を務めました。

3. 少年サポートルームふくやま

少年サポートセンター「ふくやま」は、商業施設「リム・ふくやま」の中に設置されていますが、警察、福山市、福山市教育委員会のスタッフが常駐する、広島県初の新しい施設として注目を集めています。平研究室の院生と学生は、少年の非行防止、立ち直り支援、課題を抱える学校への支援など、専門的な知識や技能を持つ職員と連携して、少年の健全な育成を図ることを目的として活動しています。毎年、1年生から適性を判断して参加してもらっています。

過去に模範青少年として[2013年に三吉大暉さん\(8期生; 広島県警察官\)](#)、[2015年に石井寿美礼さん・平本敦子さん\(10期生\)](#)、合計3名の卒業生が[広島県知事表彰を受賞](#)しています。

4. 少年補導協助手員

非行少年の早期発見及び補導，有害環境浄化等の少年の非行を防止する活動は，警察活動のみでは十分とは言えず，地域社会全体の問題として，警察署長から委嘱された地域住民が参加しています。現在，約 900 名の住民が広島県下で委嘱されています。

平研究室も 1 期生の有志が，福山被害警察署の少年補導協助手員として活動を始め，その後も絶え間なく現在に至るまで引き継がれています。それぞれの居住地にしたがって，福山西警察署，福山北警察署，尾道警察署で実績があります。少年補導協助手員を勤めたものの中から，科学捜査研究所研究員，警察少年補導員，警察官に採用されたゼミ生が出ています。

5. 警察署協議会

警察署協議会は，警察署長が，警察署の仕事の進め方について，住民の考えが反映されるように意見交換をするために設けられた機関です。また，同時に，警察署長が，警察署の仕事の進め方について，住民に説明し，その理解と協力を求める場にもなっています。

警察署協議会の委員には，管轄の住民や自治体・学校などその業務上地域における安全に関する問題に日常的にかかわりをもつ団体などの関係者のうちから，その地域における安全に関する問題について意見・要望などを表明するにふさわしい人を公安委員会が委嘱します。いわゆる，土地の名士が多くなります。その中で，若い女性の意見を反映したいと，2007 年に県内で初めて福山東警察署協議会委員に女子ゼミ生が委嘱を受けました。その後も 2 年任期で 5 名の女子学生が委嘱されています。2016 年度において，各協議会にそれぞれ 5 人から 13 人（合計 252 人）の委員が委嘱されています。

6. 広島県「減らそう犯罪」推進会議委員

広島県では，2003 年 1 月 1 日，「「減らそう犯罪」ひろしま安全なまちづくり推進条例」を施行し，同条例に基づき，2003 年 2 月 4 日に広島県「減らそう犯罪」推進会議を設立しています。そして，自由な意見交換のもとに，相互に協力して犯罪の起こりにくいまちづくりのための取り組みを推進しています。当推進会議の委員構成は規約第 3 条に規定されており，その第 4 項に「学生の代表」があります。2010 年から任期 2 年で平研究室から和田健揮さん（6 期生；科学捜査研究所勤務），[山下勇樹さん](#)（8 期生），石井寿美礼さん（10 期生），小泉昊聖さん（12 期生）を選出しています。犯罪心理学の知識をもとに，議長の広島県知事の前で学生としての意見を述べています。

7. 広島県サイバー防犯ボランティア

2014 年，広島県警察では，県民みずからの手でサイバー犯罪を抑止しようとする機運を醸成するため，教育活動や広報啓発活動を通じて，インターネット利用者の規範意識の向上を図ることを目的に，「サイバーセキュリティ・カレッジ in 広島」の席上において，県内の大学生などを[サイバー防犯ボランティア](#)として委嘱しました。

2016 年 11 月 11 日から，平研究室でも広島県サイバー防犯ボランティアに石井寿美礼さん（10 期生），小泉昊聖さん・兒玉えりかさん（12 期生）が委嘱状を受け取りました。な

お、同時に平 伸二教授も委嘱を受け、今後の心理学科生の参画を促していきます。